



区民の皆様へ

第五地区心潤う豊かなまちづくり協議会

2017

第46号

平成29年10月1日発行

# 協議会だより

■発行 第五地区心潤う豊かなまちづくり協議会/会長：青木 武雄

■編集 総務広報部会 広報委員

## 生涯学習青少年育成部会

### 第67回 社会を明るくする運動

～犯罪や非行を防止し、立ち直りを支える地域のチカラ～

全ての国民が、犯罪や非行の防止と罪を犯した人たちの更生について理解を深め、それぞれの立場において力を合わせ、犯罪や非行のない安全・安心な地域社会を築くため、「社会を明るくする運動」が行われており、7月は強調月間となっています。

7月3日（月）の夕方、法務省主唱、長野市社会福祉協議会主催で、JR長野駅前善光寺口広場にて、長野県知事ほか関係者による街頭啓発活動が開催されました。第五地区からは、青木会長、戸谷中御所区長・保護司が出席しました。



昭和小学校吹奏楽部によるオープニング演奏のあと、関係者からあいさつがありました。長野市長代理の竹内保健福祉部長は、「私たち誰もが、安全・安心な地域での生活を望んでおります。県警察本部の取りまとめによると、平成28年度の県内の治安情勢は、

高齢者を対象とする特殊詐欺が前年と比較して減少しましたが、2年連続200件を超えております。また、子どもや女性が被害に遭う犯罪や窃盗が後を絶ちません。その一方で、過ちを犯した人で立ち直ろうと決意した人を、社会で受け入れていくことや、犯罪や非行を生み出さない家庭や地域づくりが大切です」と、あいさつされました。

このあと、参加者から通行人に広報物が配布され、街頭啓発を実施しました。

## 健康福祉環境部会

### 健康体操教室

～毎日の生活の中に取り入れましょう～

日常の運動不足を解消して、健康増進、生活習慣病を予防するために、7月20日（木）、お馴染みの「からだの楽校」徳武有紀校長に南石堂町公民館にお越しいただいて、健康体操教室を開催しました。

腰かけた際に、顔を正面に向けて、坐骨の位置がどこにあるかを意識して座り、頭のとっぺんまで筋が通っている意識で息を吸ったり吐いたりしながら立つと、足の裏の真ん中に重心がかかり、正しい姿勢になります。

毎日の生活の中で身体に刺激を与えることで元気が出てきます。

無理せずゆっくり体を動かし、普段使わない部分を刺激することで、本来の働きになることを実感しました。

先生のユーモアを交えた指導で、リラックスして愉快地に楽しみながら体操を習いました。



## 長野交通安全協会 第五支部定期総会 ～交通事故のない安全・安心な地域社会を実現～

人命尊重の理念に基づき、生命の尊さと交通事故の悲惨さを深く認識し、地域、家庭、職場を中心に、一人ひとりの「交通安全意識の高揚」を目指して取り組んでいる長野交通安全協会第五支部の総会が、6月20日（火）にホテル信濃路で開催され、第五地区各区長ほか関係者が出席しました。

北村泰邦支部長は、「昨年度の長野交通安全協会管内の交通事故は、発生件数や負傷者は前年に比べ減少しましたが、死者は15人で8人増加しており残念な結果でした。この結果を真摯に受け



止め、さらなる交通安全活動に取り組みます。本年は交通事故死者を6人以下に目標設定しました。本日お越しの皆さまには、より良い交通安全環境の実現のために、ご意見・ご支援いただければ幸いです」と、あいさつされました。

来賓で新任の岡村恵太長野駅前交番所長から「最近追突事故が増加しています。交通事故の約半数は追突事故です。運転中のスマホ、携帯電話は使用禁止です。この取締を強化します。車は時速40kmで1秒間に11m走行します。また、車間距離をプラス5m、スピードダウンをマイナス5kmしましょう。そして、自転車乗用中の事故が15歳で急増、16歳で最多になっています。交差点では信号を遵守し、一時停止と安全確認を徹底しましょう」など、交通事故防止を注意喚起されました。

そして、議事では一連の議案が滞りなく承認されました。



## 長野県立大学開学に向けて ～長野市に最高の大学を目指して～

平成29年度「第一から第五地区住民自治協議会合同講演会」が、第二地区住自協の当番幹事で、7月29日（土）に長野市勤労者女性会館しなのきで開催されました。

講師には、慶応義塾大学名誉教授で長野県立大学学長に就任予定の金田一真澄教授をお迎えし、『これからの大学教育と地域のつながり』と題して講演いただきました。

長野県立大学（仮称）は2018年4月開学を目指して、長野市三輪に「三輪キャンパス」、長野市西後町の旧後町小学校の跡地に「後町キャンパス象山寮」の建設が進んでいます。

今から25年前に県立短大を4年制大学にする運動が起り、5年前の阿部知事政権時に正式に決まり、そして4年前に基本構想案ができました。これを基に県短の良い点を取り入れて、教育の原点に戻り、大学の4年間を遊ばせるのではなく、学生の持っている力をいかに伸ばすかが大学の役割と考えて、そのためにどうするかを考えてきました。

基本構想案によって全体の仕組みをつくり、最新の大学のやり方を知りながら、一方では基本となる教育の原点をきちんと押さえる。これが金田一教授の考え方で基本構想です。



「教育は人である。教育は先生によって決まる！学生を教えたいという情熱。短大から4年制大学に変わるのが遅かったのが有利に働き、最近あまり新しい大学ができないため、長野県に新しい大学が新設されるにあたり、全国から大勢の優秀な教授が応募してきた。面接しており、とても素晴らしい大学になる」と予感しているそうです。

そして、大学生活の中で初年次教育を非常に重要と考えて、「後町キャンパス象山寮」は1年生が暮らし、学びあい、コミュニケーション力や主体性、社会性を養う学生寮として、学生同士の交流はもちろん、地域の祭りや催事にも積極的に参加して、リーダーとして的人格を形成する場として、人間力を養うもうひとつの学び舎となります。

金田一教授は「がんばってこの地に最高の大学をつくりたい」との意欲で、開学に向けて精力的に取り組んでいます。



## ながの街なか市場

～ふれあい・発見・憩いの場～

9回目となる恒例の「ながの街なか市場」が、協同組合ナガノ駅前センター、南石堂町商店街振興組合、北石堂町商店街振興組合などの協賛で、7月1日（土）と2日（日）に南千歳町公園（東急シエルシェ西口前）で開催され、20数店がこだわりの商品を陳列して販売しました。



出店ブースでは、農産物や加工食品、小物・雑貨、地場食材を使ったメニューの飲食などが、テント張りの屋台に陳列、販売されました。特設ステージでは、「街角アート&ミュージック」として、Time axisの雅楽とピアノの現代曲など、ジャズ演奏・民謡舞踊・神楽舞・チアダンスなど多彩な出し物が演じられ、観衆に披露されました。ステージの合間にはPRタイムが設けられ、「森の畑」の採りたてブルーベリーやワインなど、それぞれのブースのこだわり商品を観衆にPRしました。

1日（土）は梅雨前線の影響で、あいにく一日雨降りとなり、客足がまばらな時間帯もありました。2日目は、雨も上がって陽射しが差し込む天気となり、若者や子どもたちも大勢訪れ、買い物をしたり、観客席でステージの出し物を見入っていました。

長野の魅力と郷土の豊かさを再発見する「ふれあい・発見・憩いの場」として、様々な工夫を凝らした「ながの街なか市場」でした。



## 子どもカヌー体験教室

～湖面をスイスイ漕ぎました～

信州新町地区住民自治協議会とは、地域間交流事業でお互いの地域の活性化に向けて取り組んでおり、第2回「子どもカヌー体験教室」を、子どもたちが夏休みに入った7月31日（月）に犀川ろうかく湖で行いました。この日は前日までの雨降りとは一変して青空で真夏日となりました。

カヌー体験の小学5、6年生21名と付き添いの親御さんなど26名が参加しました。スタート地点の信州新町美術館下の河川敷に集合し、篠ノ井高校犀峽分校の吉澤先生から、パドルの使い方、回転の仕方などの指導を受けました。

その後、ライフジャケットを着用して、一同川に向かって安全をお祈りし、カヌー一部の生徒さんに付き添われて上流に向かって漕ぎだし、穂苅橋で折り返して約1kmを往復しました。みんなすぐに漕ぎ方を習得して、それぞれマイペースで満喫していました。



木下健君（裾花小5年生）は「最初は思いどおりにいかなかったが、すぐに慣れてスイスイ漕ぎました。水の上から見る周りの景色が素晴らしかった」と語りました。

昼食後は、大原地区の山あいに長野市が5月に開牧した「122牧場（ひつじ牧場）」を見学しました。現在は繁殖用に雌の羊11頭が飼われています。牧場は現在1.6haですが、ここから北西方面の山の斜面を開拓し、約4haの牧場にすることを目指して取り組んでいます。



信州新町は羊のまち・ジンギスカンで有名ですが、昭和20年代後半には羊毛用として4,000頭くらい飼われていたそうです。昭和50年代にはほとんどなくなってしまいましたが、昭和57年に肉めん羊用種のサフォーク種が導入されました。ジンギスカン街道としても有名になりました。

子どもたちには、夏休みに入って日記の素材がいろいろ見つけれられた一日でした。



# 各町からのお知らせ

## 岡田町 より

### ふれあい会食 ～和やかなひと時を過ごしました～

ひとり暮らしのお年寄りが、家に閉じこもりがちになるのを防ぐとともに、地域の皆さんと交流してお互いの理解を深め、生きがいを見つけることを目的に、岡田町民生児童委員による「ふれあい会食」が、5月8日（月）岡田町公民館で開催され、15名のお年寄りが参加しました。

今回は、「音楽療法で楽しく！健康に！」をテーマに、室川裕子先生（NPO法人長野音楽療法研究会理事長）をお迎えし、「歌うことは健康につながる。大きな声が出るのは元気な証拠！」との指導で、歌に合わせて手首を回し、血流がよくなるグーパー体操などを、一生懸命行いました。

また、誰もが知っている童謡「春の小川」や「めだかの学校」を、頭を使いワンフレーズずつ交互に歌う脳トレーニングでは、皆さんから楽しいとの声も聞かれ、先生からは100点満点と評価されました。



そのほかに、「千曲川」、「青い山脈」、「星影のワルツ」などを熱唱し、満足気でした。その後の昼食会では、皆さん和やかに歓談されていました。

太田光子さん（岡田町在住）は「ふれあい会食は、大勢が集まって、歌や体操ができて楽しい」と話していました。

## 南北石堂町 末広町より

### ながの祇園祭 御祭礼屋台巡行 ～華やかに執り行われました～

今年の「ながの祇園祭」は、7月8日（土）夕暮れから宵祭りが執り行われました。北石堂町に屋台が出され、東急駐車場では弥栄神社齋藤宮司はじめ年番役員など関係者が見守る中、藤間千勢津社中による舞踊や山本謙竹社中による三味線・笛・鳴り物のお囃子が、大勢の観客に向けて華やかに演じられました。また、市内10校の小学生が描いた俄物にわかものが飾られ、たくさんの露店が並んだ

初夏の夜のひと時を、飲み物やおつまみを食べながら鑑賞していました。

本番の9日（日）は朝から暑い日で、もんぜんぶら座前で加藤市長はじめ役員により儀式が執り行われました。お先乗りの南石堂町岡宮芳宗君（小学3年）が、神の代理として装束に金色の烏帽子をかぶり、馬に乗って屋台巡行の先頭に立ち、「綱切式」で、見事に一振り切って大役を果たしました。その後、役員を従えて、夏の疫病を祓い、市民の健康と幸せを祈りながら、各町への練り歩きに出発しました。そして、午後2時過ぎには、末広町の会所で答礼をして、南石堂町公民館でお先乗りの一行はのどを潤し、馬も好物のニンジン喜んで食べてひと時の休息をしました。

『ながのご縁 信都・長野市』に相応しく、門前町を華やかに彩る初夏の風物詩「ながの祇園祭」で賑わいました。



## 事務局

第五地区の活動にご意見、ご提案がありましたら、各町の区長さんまたは、事務局にお問い合わせください。

〒380-0833  
長野市大字鶴賀権堂町2201番地20  
権堂イーストプラザND 1階 第一から第五地区合同事務所

TEL 262-1512 (FAX共通)  
メール dai5@feel.ocn.ne.jp